



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月3日

上場会社名 日本精鉱株式会社

上場取引所 東

コード番号 5729 URL <https://www.nihonseiko.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 植田 憲高

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役企画管理部長 (氏名) 若林 武則

TEL 03-3235-0021

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	12,322	4.1	754	58.1	741	58.7	514	58.6
2022年3月期第3四半期	12,853	66.6	1,801	139.5	1,794	140.7	1,243	149.0

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 510百万円 (59.4%) 2022年3月期第3四半期 1,255百万円 (145.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	210.93	
2022年3月期第3四半期	509.42	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	14,062	9,442	67.1
2022年3月期	14,840	9,298	62.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 9,442百万円 2022年3月期 9,298百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		50.00		90.00	140.00
2023年3月期		60.00			
2023年3月期(予想)				60.00	120.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,400	7.6	1,090	50.3	1,090	51.5	750	51.3	307.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	2,605,900 株	2022年3月期	2,605,900 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	165,549 株	2022年3月期	165,537 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	2,440,359 株	2022年3月期3Q	2,440,434 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件については、添付資料3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載の通りです。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（以下「当第3四半期」という）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に緩和され、緩やかに持ち直しの動きがみられました。一方、円安の進行やウクライナ情勢の長期化に伴うエネルギー及び原材料価格の高止まり、供給面での制約、金融資本市場の変動などにより、不透明な状況が続いています。

当社グループを取り巻く事業環境は、社会経済活動の正常化が進む中、製造業の回復が続いていましたが、半導体不足や中国のコロナ政策などによる物流の混乱の影響で、自動車分野などの操業に一部支障が出てきました。また、デジタルトランスフォーメーションの推進、IoTやAIの活用、5G対応端末の普及、自動車のEV化や電装化の流れなどを背景に電子部品のニーズは高まっていますが、スマートフォンやパソコンなどの民生機器向けでは、巣ごもり需要の反動減、物価高による買い控えなどから、需要が大きく減少いたしました。

このような環境下、当社グループは、「グループ力を発揮し、持続可能な事業の成長に向けて、チャレンジし続ける Challenge for Sustainable Growth」をスローガンとする2023年3月期から2025年3月期までの中期経営計画をスタートさせました。「グループ連携の強化」、「収益力の改善」、「新たな価値を生み出す事業の創出」、「魅力ある会社づくり」という基本方針のもと、高付加価値製品の生産能力の拡充、オープンイノベーション推進による新規事業創出、車載向け製品の取り組み強化、デジタル化による業務プロセスの効率化、サステナビリティ事業への取り組み、多様な人財が活躍できる環境づくり、SDGs活動の推進などに取り組んでおります。

これらの結果、当第3四半期の売上高は前年同期比531百万円減収（4.1%減収）の12,322百万円、営業利益は同1,046百万円減益（58.1%減益）の754百万円、経常利益は同1,052百万円減益（58.7%減益）の741百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同728百万円減益（58.6%減益）の514百万円となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりです。

[アンチモン事業]

同事業の原料であり、製品販売価格の基準ともなるアンチモン地金の国際相場は、主産地である中国において、ゼロコロナ政策の影響による行動制限などから主要産業の操業や消費市場も低迷し、需給が緩み、価格は弱含みとなっていました。コロナ緩和政策への転換後は需要回復期待から価格は下げ止まり、上昇に転じています。

当第3四半期の平均価格は、トン当たり約13,000ドルとなり、前年同期比約11%の上昇となりました。円建てでは前年同期比で円安となったため、約36%の上昇となりました。

同事業の主製品である三酸化アンチモンには様々な用途があります。主たる用途は、プラスチック、ゴム、繊維などの高分子材料を燃えにくくする難燃助剤であり、広範な産業分野から電化製品といった各家庭での必需品にも使用され、防災機能を付与することで、人的被害や経済的損失を防止することに大きく貢献しています。

同事業の販売状況につきましては、海外市場での需要が低迷し、販売数量は前年同期比670トン減少（13.8%減少）の4,180トンとなりました。

その結果、同事業の当第3四半期の売上高は、販売価格の上昇により、前年同期比1,657百万円増収（27.6%増収）の7,654百万円となりました。セグメント利益は、同91百万円増益（15.3%増益）の686百万円となりました。

[金属粉末事業]

同事業の主原料である銅の国内建値は、当第3四半期平均でトン当たり1,200千円となり、前年同期比8.0%の上昇となりました。

同事業の主製品は、電子部品の導電材料向け銅およびその他の金属粉末、パワーインダクタ向けの鉄合金粉末、自動車部品や産業機械部品などに使用される焼結材料向けの金属粉末で、各種製品の高機能化や利便性に貢献しています。

電子部品向け金属粉末の販売状況につきましては、新型コロナウイルス感染症対策として、在宅勤務を中心としたテレワークの急速な普及や教育などのオンライン化への取り組みが、スマートフォンやパソコンなどの通信機器端末の需要を拡大していましたが、オンライン需要が一巡すると共に、中国の都市封鎖、インフレ懸念による個人消費の抑制などの要因から需要が急激に落ち込んだため、大幅な受注減となり、販売数量は前年同期比561トン減少（47.4%減少）の622トンとなりました。

粉末冶金向け金属粉末の販売状況につきましては、自動車分野での生産調整の影響を受けて、販売数量は前年同期比330トン減少（25.4%減少）の971トンとなりました。

全体の販売数量は前年同期比891トン減少（35.9%減少）の1,593トンとなりました。

その結果、同事業の当第3四半期の売上高は、販売数量の減少により、前年同期比2,189百万円減収（32.0%減収）の4,644百万円となりました。セグメント利益は、操業度低下や電力料金値上げによるコスト増加などの影響で同1,139百万円減益（96.4%減益）の42百万円となりました。

[その他]

不動産賃貸事業等の当第3四半期の売上高は23百万円、セグメント利益は16百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期末の資産合計は、前連結会計年度末比777百万円減少の14,062百万円となりました。

流動資産は前連結会計年度末比862百万円減少の8,931百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金が332百万円増加したものの、現金及び預金が1,276百万円減少したことによるものであります。

固定資産は前連結会計年度末比84百万円増加の5,130百万円となりました。これは主に有形固定資産が119百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期末の負債合計は、前連結会計年度末比921百万円減少の4,619百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末比888百万円減少の3,622百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が480百万円及び未払法人税等が497百万円減少したことによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末比33百万円減少の997百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期末の純資産合計は、前連結会計年度末比143百万円増加の9,442百万円となりました。これは主に利益剰余金が配当により366百万円減少しましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益により514百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2022年11月8日に公表いたしました業績予想からの変更はございません。なお、業績予想の修正が必要と判断した時点で、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,085,883	1,809,298
受取手形及び売掛金	2,755,550	3,088,260
商品及び製品	1,920,393	1,956,658
仕掛品	371,838	399,835
原材料及び貯蔵品	1,427,658	1,391,197
その他	241,181	296,760
貸倒引当金	△8,838	△10,694
流動資産合計	9,793,667	8,931,315
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,728,126	1,744,310
機械装置及び運搬具(純額)	664,198	816,590
土地	1,436,191	1,436,191
その他(純額)	640,494	591,815
有形固定資産合計	4,469,011	4,588,908
無形固定資産	111,046	145,833
投資その他の資産	466,348	396,216
固定資産合計	5,046,406	5,130,957
資産合計	14,840,073	14,062,273

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,534,757	1,054,537
電子記録債務	285,391	184,346
短期借入金	1,343,000	1,545,200
未払法人税等	541,744	44,058
賞与引当金	210,630	76,640
その他	595,102	717,406
流動負債合計	4,510,626	3,622,188
固定負債		
長期借入金	249,500	236,800
退職給付に係る負債	365,219	369,772
資産除去債務	37,183	37,509
その他	378,952	353,451
固定負債合計	1,030,855	997,533
負債合計	5,541,481	4,619,722
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,018,126	1,018,126
資本剰余金	564,725	564,725
利益剰余金	7,826,337	7,975,030
自己株式	△154,168	△154,206
株主資本合計	9,255,020	9,403,675
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	35,964	23,687
為替換算調整勘定	7,607	15,187
その他の包括利益累計額合計	43,571	38,875
純資産合計	9,298,591	9,442,550
負債純資産合計	14,840,073	14,062,273

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	12,853,826	12,322,266
売上原価	10,288,434	10,743,384
売上総利益	2,565,391	1,578,882
販売費及び一般管理費	763,927	824,296
営業利益	1,801,463	754,586
営業外収益		
受取配当金	2,556	3,252
為替差益	6,166	—
保険解約返戻金	2,455	2,957
その他	4,567	6,224
営業外収益合計	15,745	12,434
営業外費用		
支払利息	10,749	13,391
休止鉱山費用	8,527	7,795
その他	3,310	4,099
営業外費用合計	22,587	25,286
経常利益	1,794,621	741,734
特別利益		
固定資産売却益	1,387	59
特別利益合計	1,387	59
特別損失		
固定資産除却損	931	828
特別損失合計	931	828
税金等調整前四半期純利益	1,795,077	740,965
法人税、住民税及び事業税	542,894	188,144
法人税等調整額	8,970	38,073
法人税等合計	551,864	226,218
四半期純利益	1,243,212	514,746
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,243,212	514,746

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,243,212	514,746
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,296	△12,276
為替換算調整勘定	4,281	7,580
その他の包括利益合計	12,578	△4,695
四半期包括利益	1,255,791	510,050
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,255,791	510,050

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	アンチモン 事業	金属粉末 事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	5,996,565	6,833,598	12,830,164	23,661	12,853,826	—	12,853,826
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	38,527	38,527	1,154	39,681	△39,681	—
計	5,996,565	6,872,126	12,868,692	24,816	12,893,508	△39,681	12,853,826
セグメント利益	595,507	1,182,365	1,777,872	17,586	1,795,459	6,004	1,801,463

(注) 1. 上記の報告セグメントに含めていない、不動産賃貸事業等であります。

2. セグメント利益の調整額6,004千円はセグメント間取引の消去6,004千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	アンチモン 事業	金属粉末 事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	7,654,409	4,644,233	12,298,642	23,623	12,322,266	—	12,322,266
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	50,848	50,848	1,151	52,000	△52,000	—
計	7,654,409	4,695,082	12,349,491	24,775	12,374,267	△52,000	12,322,266
セグメント利益	686,536	42,516	729,053	16,850	745,903	8,683	754,586

(注) 1. 上記の報告セグメントに含めていない、不動産賃貸事業等であります。

2. セグメント利益の調整額8,683千円はセグメント間取引の消去8,683千円であります。